

## 農業・資源経済学 学部4単位 シラバス

これは、イメージであり、実際の授業内容は毎年受講生の希望も踏まえて変更していきます。

### ・講義概要

“Think Globally, Act Locally”という言葉はわが国のみならず世界中で社会経済の活動を語る際のキーワードとなっている。経済のグローバル化が急速に進んでいる中で、それぞれの地域がその自然社会生態系に基づいて形成されている文化・社会を自覚的に認識して自らの開発を行い、対等の立場で世界と交流を行っていくことが期待されている。

農業は単に私たちの食料を生産する役割を担うのみではなく、地球や地域の自然資源の適切な利用と管理に大きな役割を果たしている。開発途上国では、その比率こそ低下しているが、農林水産業は経済規模においても雇用規模においても重要なセクターであり、この持続可能性は途上国国家および国民の生活の質の向上に不可欠である。農業の生産・流通・消費に関する仕組みや制度・政策について理解することは、一人一人の市民が、対等、互恵の立場でローカルに根差したグローバルなネットワークを形成し、開発行為に関わっていくことにおいて不可欠である。

本講義では、受講者が卒業後、企業、行政、NPO等多様な分野で活動する際に最低限必要な農業・資源経済学領域の諸事象に関する知見を事例を多用しながら紹介する。

### ・到達目標(講義のねらい)

農業・資源経済学領域の諸事象、市民としての関わり方について自分が生活する場を参照しながら説明できるようになることを目標とする。なお、分析手法についてはトピックとしての紹介に留め、履修者が分析を行えるようになることは目標としない。

### ・講義予定

本講義は30回を5つのサブテーマに分けて、それぞれ6回の講義で構成する。なお、そのうち各1回は映像を用いた事例研究とし、各1回は可能な限り時間外の現場訪問や社会の中での実践者による講義を行う。

講義の内容は、おおよそ以下のとおりであるが、受講者の興味により適宜修正を行う。順序は季節や訪問先・外部講演者の都合等により若干の変更もありうる。

#### サブテーマ1 農業とはなにか・他の産業との違いについて

- 1 人間にとって農業とは何か(人類の歴史と農業)
- 2 農業の多面的機能
- 3 農業近代化の光と影
- 4 日本の農業近代化の概要と評価
- 5 農業基本法を農家の立場から振り返る(東北大学博士論文)ドキュメントビデオを基に討論

## 6 農業・資源経済学と私たちの生活(講義のまとめ・順序としては最終回)

### サブテーマ2 私たちの食を支える農業と流通の仕組み

- 7 食料安全保障について(日本の歴史を中心に)
- 8 産直・地産地消の社会経済学
- 9 食料主権と消費者
- 10 食の安全と支える仕組み
- 11 地域で支える農業(鳴子のコメプロジェクト)を題材にしたドラマビデオを基に討論
- 12 生協または産直マーケットの見学または講演

### サブテーマ3 地域における資源を活用した地域の振興

- 13 地域資源に基づく地域振興の必要性
- 14 地元学の出自と応用
- 15 内発的発展論の歴史と展開
- 16 内発的発展論と参加型開発
- 17 釧路湿原を題材とした住民参加の資源認識と開発に関するビデオを基に討論
- 18 滋賀県甲良町のまちづくり見学または講演

### サブテーマ4 グローバルな環境・資源問題としての農業生物多様性と私たち

- 19 農業に関連するグローバルな環境問題とは(気候変動・砂漠化を中心に)
- 20 生物多様性と農業
- 21 農業技術開発と生物多様性のトレードオフ
- 22 作物品種を考える
- 23 種苗会社を訪問する
- 24 種子システムに関するビデオを基に討論

### サブテーマ5 開発途上国における農業・農村開発

- 25 国際協力の歴史と仕組み 農業・農村開発を事例として
- 26 農業開発を支援する国際機関(国連食糧農業機関と研究機関・NGO)
- 27 日本の農業協力
- 28 農業・農村開発の同時代性
- 29 途上国農業開発に関するイベントを訪問する(または関係者による講演)
- 30 途上国農業開発に関するビデオを基に討論

・履修上の注意

登録人数にもよるが、原則として教科書・事前配布資料の予習を前提として討論を交えた講義を行う。

履修中に京都市内等で行われる農業・資源経済関連のイベントに最低一度は参加すること。(日時・場所・主催者の概要・イベントの概要・新しく得た情報・自分が参加する方法についてレポート提出を課す)

・評価

期末筆記試験 30% 現場訪問・ビデオ討論レポート 40% 出席 30%

・教科書および参考書

宇根豊 『天地有情の農学』コモンズ

大賀圭治 『食料と環境』岩波書店

北野収 『共生時代の地域づくり論』農林統計協会

末原達郎 『人間にとって農業とは何か』世界思想社

鶴見和子 『内発的発展論の展開』筑摩書房

寺西俊一・石田信隆編 『農林水産業を見つめなおす』中央経済社

西川芳昭他編 『国境を越えた地域づくり』新評論

西川芳昭 『地域文化開発論』九州大学出版会

野田公夫編 『生物資源問題と世界』京都大学学術出版会

守友裕一 『内発的発展の道』農山漁村文化協会

松岡俊二 『国際開発研究』東洋経済新報社

そのほか、経済関係雑誌・新聞記事等の追加配布資料を用いる。